

RCE Contributions to a More Sustainable World

より持続可能な世界へ向けた RCE の取組

—RCE アワードを受賞した 12 の ESD 優良事例 概要—

※【 】内は、関係する RCE の所在国及び地域区分(アジア・太平洋、南北アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ・中東)、RCE 名、受賞年。

テーマ 1: People 人材育成に関するもの

1. サステナビリティへの道筋を掘り起こす (Cultivating Pathways to Sustainability)

【アメリカ(南北アメリカ)、RCE バーリントン広域圏、2018 年】



地域の中学校と RCE が連携し、生徒たちが SDGs や地元へ根付いた SDGs 活動について学ぶための取組。学外の農園や大学、環境保全団体と連携しながら、SDGs 達成のために生徒たちがローカルレベルで何ができるか、一年を通して講師から指導を受けながらアイデアを出し、プロジェクトを企画する。そのテーマは幅広く、メンタルヘルスや男女平等、学生によるサステナブル製品のビジネスまで渡る。結果として生徒達からは 100 以上のプロジェクトが立ち上げられ、今でも年 2 件の企画が実行されている。

2. 農業を通じた学校と栄養指導の強化

(School Empowerment and Nutrition Through Agriculture)

【ナイジェリア(アフリカ・中東)、RCE ミンナ、2018 年】



15 の寄宿学校(中学校)と RCE が連携し、学内での園芸を通じて、農業や栄養の問題について生徒が学ぶ活動を実施。RCE 監修の元、果樹等の木々を植えた他、栄養を摂取できる様々な野菜を育てた。授業で学んだ肥沃土や水保全、栄養等の知識は、連携して園芸活動の中でも実践された。結果、2018 年時点で 2000 以上の木々が植えられた。また先生達も RCE から金融リテラシーや環境意識などの補講を受け、授業の組み立てに必要な知識を得ることができた。

3. 初期教員研修におけるサステナビリティの価値と学び

(Values and Learning for Sustainability in Initial Teacher Education)

【スコットランド(ヨーロッパ)、RCE スコットランド、2018 年】



スコットランドで教員初期研修(ITE: Initial Teacher Education)を行う 8 大学と協力し、初等～高等教員むけの研修の中で ESD の知識とスキルを教えることを通じて、教育の質を上げることを目的としている。教員は大学での研修の他にも、オンラインセミナーの受講や研修での学びを教育現場で実践するための支援等を受けることができる。このプロジェクトの中で作成した WEB サイト(指導者のための ESD 教育を助けるツールプラットフォーム)はその後も ITE において用いられている。

4. カンボジアの農村地域における食、農業、環境を通じた ESD の推進

(Promoting ESD through Food, Agriculture, and Environment in Rural Communities in Cambodia)

【カンボジア(アジア・太平洋)、RCE プノンペン広域圏、2015 年】



持続可能な農業の実現のために必要な農業使用などの知識やスキル不足を課題と捉え、①地域行政機関にスキルや知識及び道具を提供、②地元農家に持続可能な農業を教えること、③化学薬品の使用が少ない農業製品の販売促進の 3 点を目的に 5 年間活動。具体的にはカンボジアとタイで農家の農業トレーニング実施や持続可能な農業を周知するガイドブックの発行、大学・行政・農家が参加するワークショップ開催等を行った。結果、持続可能な農業に対する理解や知識が普及し、化学薬品に過度に頼った農作方法に変化が見られた。

テーマ 2: Planet 地球環境に関するもの

5. SDGs ユース・チャレンジ (Asia-Pacific SDG Youth Challenge 2018)

【オーストラリア & インドネシア (アジア-太平洋)、
RCE ウェスタンインドネシア広域圏及び RCE ジョグジャカルタ、2018 年】



ユースが周囲の人を巻き込みながら実践的な変化を起こせるように鼓舞することを目的としている。具体的にはアジア-太平洋地域、および南アメリカのユースからプロジェクトを募集し、各国で実施。テーマは海岸清掃やペットボトルキャップアートなど多岐にわたる。最終的にはユースによる 20 のプロジェクトに世界中の約 8000 人が直接参加した。また実施後に開催されたアジア-太平洋 RCE 地域会合におけるバーチャルユースサミットでは、そのうちの 9 プロジェクトについて発表し、知見を共有した。

6. サステナビリティ・リーダーシップ養成のための研修プログラム開発

(Coastal Institute for Sustainability Leadership (CISL))

【アメリカ (南北アメリカ)、RCE ジョージタウン、2017 年】



RCE が設置した機関 Coastal Institute for Sustainability Leadership (CISL) のなかで、大学生向けに授業をデザインし、海岸エリアである地元が直面する問題「気候変動」や「海面上昇」、「洪水」について調査するとともに、気候変動に関する「政策」についても学ぶ機会を提供することを目的とする。生徒はこれらのテーマを、SDGs のフレームワークを用いたシミュレーションやケーススタディーを通して学ぶ。またコースの終わりには 20 人の市民とともに、ロールプレイを用いたコミュニティ参加ワークショップを開催。気候変動による海面上昇と洪水について、議論を行った。また市民が声を上げ、RCE を通じてアメリカ海洋大気庁より 10 万ドルの助成金を得ることができた。

7. グリーン Go! 郊外における持続可能な発展のためのグリーンインフラの役割の推進

(Green Go! Promoting the Role of Green Infrastructure in Sustainable Development of Non-Urban Areas)

【ポーランド (ヨーロッパ)、RCE ワルシャワ首都圏、2019 年】



本 ESD プロジェクトコースは、農業学校を主とする 14 校で学ぶユースや地域コミュニティが自然の中でグリーンインフラが担う役割やその重要性について学ぶこと、また植物の保全や新たに植える方法を学ぶこと等を目的とする。参加者達は地域の自然状況(植物の種類や水質など)を調査し記録を集めた。またトレーニングやワークショップ、デモンストレーションなどのレッスンには、生徒だけでなく地元行政の人々、地域住民など計約 700 名が参加。WEB のポータルサイトを「データベース」として用いて生徒達に情報源を提供した。さらにデジタルツールを積極的に用いた本プロジェクトでは、メンバー全員が使える地図アプリケーションの開発や GIS を用いたローカルグリーンインフラに関する 15 のデータベースなどが成果として得られた。

8. ヴィクトリア湖集水域における環境教育プロジェクト

(Lake Victoria Catchment Environmental Education Project)

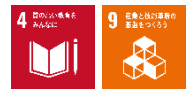
【ウガンダ (アフリカ・中東)、RCE マサカ広域圏、2017 年】



急激な人口増で人々の生活を支えていたヴィクトリア湖や周辺の自然が破壊されていた事をうけ、教員や小・中学校の生徒、そして地元市民に対して、彼らの住む集水地域の自然について知識を教え、学校での ESD を促進するために活動。先生向けには現地トレーニング、セミナー、ワークショップを実施した。またモデル地域では、地元行政と連携し ESD を教育委員会のカリキュラムに組み込んだ他、ユースには植樹や魚の養殖など様々な体験学習の機会を提供した。結果、参加地域全体の 8 割以上の学校が ESD をカリキュラムに組み込むこととなった。

テーマ 3: Prosperity 地域の持続可能な発展に関するもの

9. 太陽光発電を使ったモバイル地域学校の開校 (Community Mobile Solar Powered Tech Classrooms) 【ナイジェリア(アフリカ・中東)、RCE カノ、2017 年】



ナイジェリアの遊牧民の子供達が、移動故に教育を受けられていない現状を打開するため、太陽光エネルギーを使用した移動式テント内で「モバイル授業」を提供した。(参考:国内 940 万人の遊牧民のうち、330 万人は就学年齢で識字率は 0.2~2.9%)地元大学や再生エネルギー・気候変動センター、そのほか多様な外部団体と連携しながら進めた他、教育への理解が浸透していない慣習の中でその大切さを訴えるため、親御さんへ通学の約束を取り付けたり、宗教上のキーパーソンや地元政府を巻き込んだりすることで円滑な運営の道筋を見出すことができた。結果、一年後には殆どの子供達が年齢に見合うレベルで読み書きができるようになった。

10. 糸から始まるエシカルファッションプロジェクト (Thread Counts) 【イギリス(ヨーロッパ)、RCE セヴァーン、2017 年】



ファストファッションの台頭により増加している衣類の廃棄を減らすための教育プロジェクト。地元の大学(生)、繊維メーカーやファッションデザイナーが参加してデザイン業、繊維業を見直し、持続可能でエシカルなファッションのあり方を考えることを目的とする。地域関係者によるディスカッションや、学生によるエシカルファッションをテーマにした作品展示イベントを開催した。結果として大学同士のパートナーシップが広がり、地域で服を修理・リメイクしたいという需要が高まるなどの成果があった。

11. インジェにおける公共交通システムの向上 (Improving a Public Transport System in Inje) 【韓国(アジア・太平洋)、RCE インジェ、2018 年】



インジェ地方は豊かな自然を目的に毎年一万人もの観光客が訪れるが、地域の公共交通機関(バス)は非常に不便かつ高額なため、観光客や地元住民は主に車で移動していた。そこで、RCE は温室効果ガスの排出やその他環境負荷を減らし、より安価で便利な公共交通システムをつくるため、住民や様々な地域市民団体に働きかけて委員会を設立。地域自然環境について理解を深めてもらい、新しいバス路線作りに参画してもらえるよう働きかけた。フォーラムやセミナーなどの開催を行い、結果として 5000 人(全住民の 6 分の 1 ほど)が企画に参加し、政府への嘆願書に署名をした。その結果、地元行政は新しい運賃体系の導入と住民・観光客用のバスルート追加、燃料効率の改善を約束した。

12. 小学校における持続可能な起業家教育 (Sustainable Entrepreneurship in Schools) 【ブラジル(南北アメリカ)、RCE クリチバ・パラナ、2019 年】



貧富の格差が大きいブラジルでは、持続可能な行動は「経済的余裕がない家庭ではする余地がない」として軽視されてきた。そこで、小学生を対象に「持続可能な起業家としての精神」に基づく考え方や行動を促す事を目的に活動。生徒達は学期の始めに SDGs のコンセプトを学び、それぞれのゴールに対してできることを実地研修も行いながら一年を通じて学び考え、一年の終わりにクラス内で成果と提案を発表した。また先生達や学校の管理者達は RCE メンバーと定期的なミーティングを開き、学習プランについて協議した。この学習を通じて子供達は持続可能性への考え方を深め、身近にいる家族の行動にも変化があった。また情報を読んだり聞いたりして学ぶ能力や自分の意見を皆の前で発信する力も身につけることができた。